



# 施設長挨拶



開設25周年を迎えて

施設長 曾我 満美

平成3年5月27日、特別養護老人ホーム北九州シティホームを開設し、今年25周年の節目の年を迎えました。開設当初の様々な出来事が懐かしく思い起こされる昨今になりました。

4月1日開設予定が大幅に遅れ補助金申請に梃子摺ったこと、新卒職員を4月に入職させられなかったこと、お給料を支払うのに苦慮したこと、開設披露を入所者を受け入れたのちに執り行ったことを始め、初日に入所された二人の高齢者のお顔・お名前、満床になった日の喜び、デイサービス開始日の緊張感等々書き尽くすことも出来ませんが、役員・職員共に手を取り合い、一歩ずつ綱渡りをしているかの思いで今日まで無我夢中で走り続けて参りました。

開設するに当たり、親を入所させられる施設に、自分自身が喜んで入所できる施設に、を目標に25年間取り組んで来たつもりですが、四半世紀を経過して尚、満足出来る施設だとは云えません。が、今日まで、大きなトラブルに見舞われることなく運営できておりますのは、関係各位の皆様方からの適切なご指導は素より、歴代の法人役員の方々のお導き、ボランティアの皆様の温かいお心に支えられ、そして何より開設時より、喜び・苦しみ・悲しみ等々を共有してきた職員との出会いに恵まれたことが、この25年間の私の一番の宝であると実感しています。

高齢者を取り巻く環境は、介護保険の導入により大きく変わりました。社会保障制度も尚一層厳しいものになりました。少子高齢化は更に加速し、介護を担う質の高い職員確保には年々苦慮しています。

今年度北九州市は国家戦略特区プロジェクトのロボット特区の指定を受け、先進的介護の実現を目指し、介護ロボット導入へと歩み出し、開設当初には想像もなかった環境が目の前に広がりました。社会福祉法人の使命も大きく変わりつつあります。これまで培ってきた安全で安心していただける高水準の介護の提供、介護の社会化を柱に、今後もまだ幾分不透明である社会福祉に、一つずつ丁寧にして真摯に、正面から向き合い、30周年、50周年を笑顔で迎えられるよう、精進し研鑽を積む日々をしたいと改めて決意致しました。

25年前の開設日の翌日の5月28日、当法人の役員の方々、現役員とその家族、そして旧職員の皆さんだけでの内輪の祝宴を執り行いました。開設時から一緒に汗を、涙を流した少し年を重ねた職員も多く駆け付け、祝ってくれました。職員一人ひとり、やはり年月の経過を感じ、そして今一緒にいる職員達と尚一層の結束を再確認することが出来ました。

やはり介護は人です。暖かい人の心そのものです。これからも職員一丸となって薫会を守っていく覚悟でおります。この紙面をお借りし、今日まで支えてくれた職員皆に感謝の思いを伝えたいと存じます。

そして、ご拝読下さる全ての皆様へ、25年間ありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後も変わらぬご指導、ご支援をお願い致します。25周年のご報告と致します。

深謝

